

項目	主なご意見	
(1)基本機能について		
①ホール	五島会長	生の芸術に触れる機会として実施されている鑑賞事業を行うには800席程度のホールが必要。
	赤山委員	ホールは音響がいいものが良い。
	河合委員	学校利用(生徒+保護者)を考えると収容人数800人は必要。800人程度のホールになるのであれば、固定席が望ましい。 とりぎん文化会館との差別化が必要。 800人未満であれば、平土間空間の方が使い勝手が良い。
	木谷委員	市民会館の後継と考えると800席がちょうど良い。 音響に特化したホールにするのであれば、300席規模が良いのではないかと。
	湯浅委員	市内既存施設との差別化を含め、音響の良い300~500席程度のホールが良い。 800席はやや大きいが、2階席方式で、1階席のみを利用することも可能であれば、全体は800席でも良いかもしれない。 座席は可動式よりは固定式を望む。 楽屋については、ある程度の共用は想定しつつ個室が2~3部屋、大部屋を含めて4~5部屋は欲しい。
	大倉委員	600席程度がよい。600席であれば高校生の収容が可能。900席までは不要と思う。 客席は段差式の固定席が望ましい。
	②練習スペース 練習室	田邊委員
河合委員		防音性能は必要。 動きのある活動を行うのであれば、100㎡など広さがある方が良い。
湯浅委員		練習室があればあるほど良く、様々な大きさの部屋があると良い。ホールの舞台と同様に長方形だと利用しやすい。 防音性能が高いものを望む。また、ピアノや可動式のステージが備わると利用の幅が広がる。 会議室が防音であれば、一体利用は可能。
大倉委員		様々な用途で利用可能と史料。
見せる練習室	田邊委員	運営者目線では、ガラスは断熱には不向きであり、利用や準備に際して危険性もあることから、壁材としては使ってほしくない素材。また、間取りの制約が生じて設計の自由度の阻害にもつながる。これらも踏まえると、見せる必要性がどこまであるかは懸念。
	河合委員	見せる練習室自体は多くなくて良い。
	湯浅委員	カーテン等で目隠しできるようにしておくことが必要。
	大倉委員	カーテン等があるとよいのではないかと。
③交流スペース 交流スペース・会議室	田邊委員	交流スペース：目的と必要性を明確にすべき。 会議室：「防音性能を備えた間仕切り」は技術的な実現可能性の問題もあるので、表現の検討が必要。
	河合委員	交流スペース：カフェのようなコアワークスペースで、予約制ではなく、自由に使える空間が良い。
	湯浅委員	交流スペース：開放的な大空間で、みんなが集まれるような空間をイメージする。 用途によっては空間を分割できるように間仕切りがあると良い。
	大倉委員	交流スペース：市民が活動するところ、活動の拠点となるので重要ポイントと思う。 高齢者も気軽に楽しめる、心の健康につながる活動ができると良い。可動式パーテーションで空間を区切ることができると良い。
クリエイティブ空間	田邊委員	ハードとして整備するのではなく、ソフトとして別施設で対応することも可能ではないかと。
	河合委員	公民館ではできないようなものづくりワークショップや練習ができる空間がよいのではないかと。 部活動の地域移行が始まっており、将来的に複数校の合同利用場所として利用されるのではないかと。 ある程度オープンなスペースであると良いが、区切って使えることができると良い。
	湯浅委員	ロビーでコンサートができて面白い。グランドピアノを設置してもよいのではないかと。 ガラス張りの空間としてワークショップをしている様子が見えるのも楽しい。
	大倉委員	個別に整備するのではなく、交流スペースと一緒によいのではないかと。防音であれば何にでも使える。色々な場所から見える空間だと良い。 活動としては、モノづくり、体操（ヨガ・骨盤体操）や教室講座は人気が高いと史料。定期的な教室講座があった方がよいのではないかと。

項目	主なご意見	
④展示スペース	田邊委員	展示のみを対象としたスペースは年間を通じてデッドスペースとなる可能性が高いため、会議室、練習室と共用できるなど稼働率を上げるための工夫が必要。
	河合委員	多用途に利用できることが必要。ピクチャーレール、防音性能は必須であり、書道展示には天井の高さが必要。
	木谷委員	800㎡程度が使い勝手が良い。美術展開くには600㎡では少し狭い。
	湯浅委員	展示スペースでコンサートが行えるなど、絵画と音楽のコラボ等もできれば面白い。
	大倉委員	画鋲や釘が打てる、敷居が高くない、気軽に使えて可変性のあるものが良い。 そこまで大きくなくても良く、ギャラリーそらの2倍の広さがあれば高校生の美術展示ができそう。 交流スペースとの一般的な利用で考えてもよいのではないかな。
⑤収蔵・保管スペース	田邊委員	収蔵・保管する目的、対象物、対象のジャンルが見えていない。維持管理費（24時間空調が必要）や設備更新にも大きく影響するため、慎重な検討が必要。
	倉持委員	優先順位は高くないと史料。
	河合委員	収蔵庫の必要性は疑問。とりぎん文化会館の一角にあるガラスケース展示と同等のもので十分ではないか。
	木谷委員	収蔵品はたくさんあるので難しい、優れた作品の収蔵を。 見せる収蔵庫では収蔵品に光が当たるのでふさわしくない可能性もある。
	湯浅委員	見せる収蔵庫とするのであれば、一般的な収蔵庫ではなく展示用に綺麗に並べる必要がある。
	大倉委員	収蔵庫は「見せる」必要はないのではないかな。収蔵品に関しては、学芸員の確保や管理の面があるため優先順位低くても良いかもしれない。
⑥駐車場	田邊委員	周辺の街歩き、他の公共施設との連携、民間駐車場事業者との連携で、施設のためだけの駐車場ではなく、繁忙と閑散のバランスが補える立地で、有料黒字化を狙った戦略的な駐車場にすべき。
	湯浅委員	ホールの規模によって駐車場の規模も求められるものが変わる。
	大倉委員	利用者は無料で使えと良い。
⑦育成・発信機能	五島会長	新たな文化施設ができるまでの間も文化をつなぎ、人を育てることが重要であり、人材育成などの取組（事業）を行うということが必要 表現活動をする人と、地域・まちの間を取り持つ人材について、どのようにしていきたいことを考える必要がある
	赤山委員	段階的な整備となる場合、既存施設の利用も含め活動する場の確保が必要になるのではないかな。どのようなスケジュール感で物事が進み、間をどうつないでいくのかということが分かるとよい
	齋藤委員	施設というよりは人が重要。究極的には施設はなくてもよく、既存施設の活用も含めて、人材育成を行っていくことが重要
	川崎委員	鳥取で色々と体験した人が、移住してきて文化を作ることが理想。税金を使ってできることもあるので、市でしかできないことを考えていくことが必要。自身の展示会は頼める人がピンポイントであり、マネジメントや事務局等文化事業を支える人材がいなくて大変。
	田邊委員	「(7)育成・情報発信機能」(P.23)を支える文化芸術デザイナーや博物館学芸員を雇用する場合、求める能力の方にふさわしい賃金体系を担保できなければ人材を確保できない。（県内にはいないかもしれない。）
	倉持委員	新たな施設をどう使っていくか等のワークショップの開催は有用。財政面とあわせて検討するべき。
(2)基本機能全体		
①再編・統合	赤山委員	施設を単体或いは複数で整備するのかという点が全体として見えにくい。
	齋藤委員	全体的に簡潔な記載にしたほうが分かりやすい。既存の4施設の再編・統合という点も記載するなど明確にしたほうが良い。
	大倉委員	管理・運営は検討の必要あり。切れ目なく検討を進めてほしい。
②基本理念等	五島会長	文化芸術の話の前に、新たな文化拠点の整備について期待している事項を表現してほしい。
	赤山委員	誰もが参加できる鳥取の文化芸術の拠点という視点が重要。
	齋藤委員	拠点を整備することでどのような街にしたいのか、芸術を使ってどうしていきたいのかという視点が重要。
③その他	五島会長	「だれにでも」という表現について、障がいのある方、子ども、高齢者など幅広く考える必要があり、そうしたことを意識した記載にすることが必要。
	齋藤委員	本基本構想は、ワークショップ、アンケートの意見も踏まえて作成されていることが明確に分かるようにしたほうが良い。
	倉持委員	今後は現在文化施設を使っていない人の意見を聞きながら検討を進められると良い。
	木谷委員	鳥取市内に美術館機能がなくなってしまったので、市民活動・発表の場として美術館機能は必要。展示・収集、学芸員、教育普及の3つが必要。 現状東部に美術の学芸員がいないため、市で相応しい学芸員を採用して、文化財団に派遣・育成のうえ、新しい施設に移ってもらうことがよい。 公共交通が集まるところに直営の美術館があると良いのではないかな。